



Follow up

—会長の時間4— 点鐘の鐘について

本日は、本来会員インタビューですが、その会員がお休みですので臨時に点鐘についてのお話でお付き合い下さい。

RCでの点鐘がいつどこで始まったのかははっきりしません。一説によると、1920年ころ東京ロータリークラブが使ったのが始まりで、あとは右に倣えとなったのではないとも言われています。

点鐘は日本独得のもののように、私の海外メーキャップ経験では、点鐘の代わりに“Call to Order”つまり“お静かに願います”で例会が始まるケースが多かったです。キンキンとフォーク等でグラスを叩くその音は、パーティなどでお喋りが盛り上がっている所に「お静かに」「こちらを御注目ください」を意味し、これを“Call to Order”と呼ぶ西洋の風習です。当然例外もあり、香港ペニンシュラRC、ワイキキRCでは、開会点鐘、閉会点鐘で終始しました。

日本人は昔から小学校以来、鐘（チャーム）で行動することに慣らされており、案外ロータリーの点鐘もケジメを付ける意味で日本人の習慣に合っているのかもしれませんが。

点鐘で始まり、点鐘で終わる。これは例会だけではありません。年次大会、地区協議会、IM等ロータリーの会合はすべて同じです。

ところで堺クラブの鐘は、実は2代目です。この鐘の胴体部分には歴代会長名が刻まれ先代は、初代喜多会長（浪速大学—今の大阪府立大学—学長）に始まり、畑清治郎会長（元日銀小樽支店長、泉州銀行専務）の44人で終わり、現在の鐘は、入江会長（産婦人科医）から始まり、昨年の高橋 明会長で目下26人目、あと18人。2038年には3代目となる予定で、今も新しい会長が刻まれ続けています。

という事でわたくしは、毎回始まりと終わりに過去の会長のお名前を勿体なくも“カーン”と引っぱたいっている事となります。相済みません。

本日はこれにて。おやかましゅうございました。

2020年7月30日第四例会 会長の時間にて 東野 裕 暢